

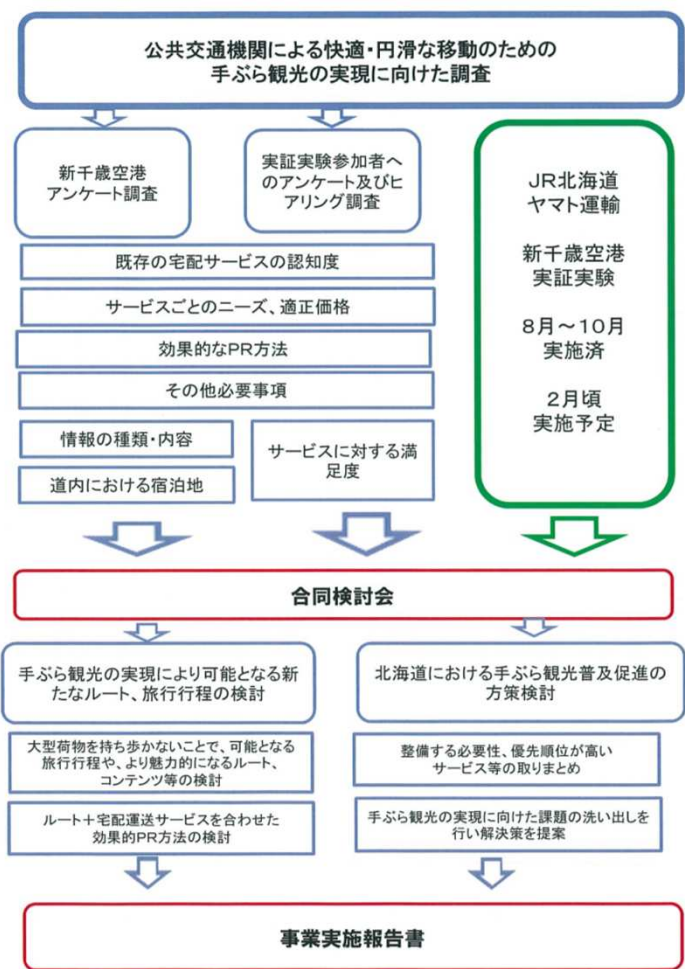
公共交通機関による快適・円滑な移動のための手ぶら観光の実現に向けた調査業務

【現状】車両内の荷物置き場の不足、大型コインロッカーの不足、冬道でスーツケースのキャスターが機能しない等の理由から大型のスーツケースを持った移動が困難になっていることや、J Rや路線バス車内に大量に荷物を積み込むため定員以下の人数しか乗車できない事例が発生する等、訪日外国人旅行者の手荷物に関する障害が大きな課題としてあげられている。

【調査】訪日外国人旅行者向け宅配運送サービスを普及促進させることで、障害を解消するとともに訪日外国人旅行者の満足度向上を図ることを目的として

【目的】北海道におけるニーズ、適正価格の把握や、効果的なP R方法の検討を北海道登別洞爺広域観光圏及びJ R北海道・ヤマト運輸と連携して実施。

事業の概要



1. 新千歳空港を利用する訪日外国人旅行者対象調査

2月16日～20日の5日間でアンケート151通回収
調査員2名



J R新千歳空港アンケート

連携1. 新千歳空港から札幌市内ホテルまでの宅配サービス

1月28日～2月14日で 439個取扱い
JR北海道とヤマト運輸で共同実施
北海道レールパス購入者に@500で提供
夏の実証実験より大幅アップ

2. 手ぶら観光サービスの無料提供(登別駅・洞爺駅)

2月15日～2月25日

	「登別駅」	「洞爺駅」
手荷物配送	710個	206個
一時預かり	36個	32個
アンケート回収	287通	127通



手ぶら観光パンフ

連携2. 登別駅ポーターサービス

2月8日～2月25日
18日間で2540個を取扱い

スタッフは高齢者を中心に募集
・ポーターとして8名(午前4名午後4名)
・案内・調整役として1名

3. モニターツアーの実施

2月下旬から3月上旬
3組6名が実際に手ぶら観光を体験
宿泊は登別・洞爺・札幌から3泊選択
参加者の内訳 台湾4名・タイ2名
アンケート6通回収



登別受付風景

4. 海外マスコミ・旅行エージェント対象調査

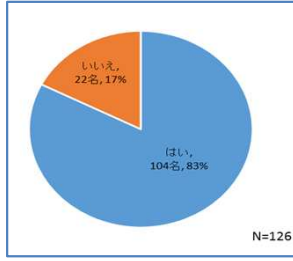
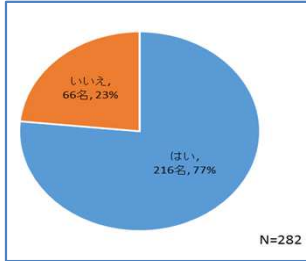
3月1日～3日にキロロリゾートで開催された「Hokkaido Snow TRAVEL Expo 2016」参加の海外の旅行会社・マスコミにアンケート用紙を配布し27通回収

北海道における手ぶら観光普及促進の方策の検討

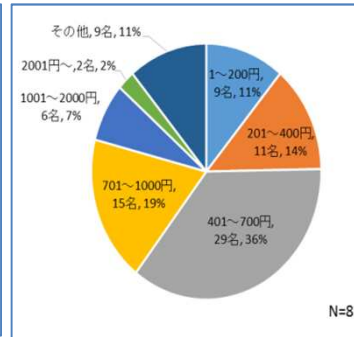
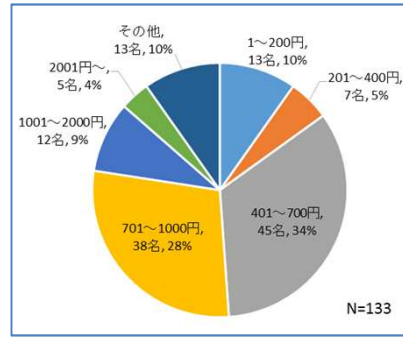
主なアンケート結果

※左は「登別」右は「洞爺」のアンケート結果

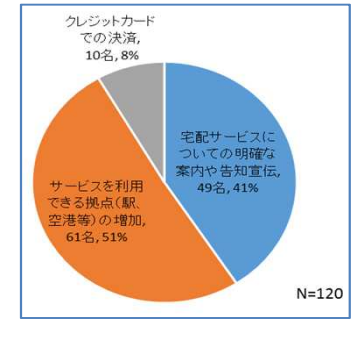
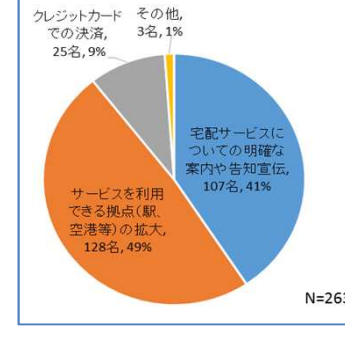
有料でもホテルへの手荷物配送サービスを利用しますか？



有料の場合の金額はいくらぐらいが妥当ですか？



宅配サービスを利用する上で重要となる要素は何ですか？



「調査結果から出た手ぶら観光実現に向けた主な課題」

- 駅とホテルの手荷物宅配サービスは、繁忙期での事業化は可能性があるが、効果としては路線バス等の混雑緩和のみに限られる。
- 個人旅行者の需要が高い札幌、登別・洞爺、函館ルートの日配送を継続的に運行するためには、一定の取り扱いが必要であるが、初期投資費用の問題から宅配サービスのみでの商品化が難しい。
- 手荷物宅配サービスの外国人旅行者の認知度が低く、現地での情報発信が不十分である。

「解決策の提案の概要」

- 宅配配送サービスの利便性に加えて、より多くの観光地を巡ることができる、観光の時間が長くなる等のメリットも併せてPRすることが重要
- 手ぶら観光の安全安心PRは官民共同で行うことが必要である。
- 商品化に向けて宿泊事業者、交通事業者等の他業種との連携が重要である。

◆手ぶら観光で魅力がアップするコンテンツ

多言語での「街あるきマップ」や「体験メニューパンフレット」と地元観光施設の割引券をセットでお渡しすることが効果的



◆認知度向上のための効果的なPR手法

- ①手ぶら観光シンボルマークの活用
- ②中国での利用者が多い微博(ウェイボウ)や微信(ウェイシン)等を活用し、現地での情報発信の強化
- ③「手ぶら観光」だけではなく特に公共交通機関による観光スポットの回り方等の二次交通情報もセットで情報発信



「手ぶら観光普及促進に向けた今後の取組」

個人旅行者からの需要が高い札幌—登別・洞爺—函館ルートを中心として、官民一体となって手ぶら観光の普及促進を図るため交通事業者や宿泊事業者等幅広い業種を交え検討を重ね普及促進を図る